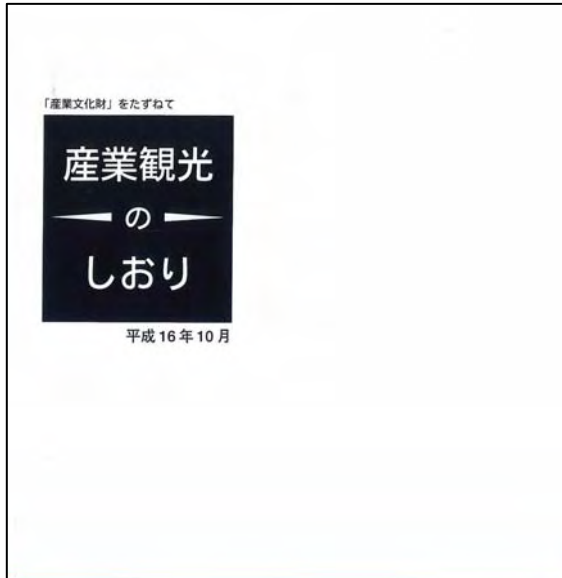


⑪産業観光のしおり

「産業観光のしおり」は、名古屋商工会議所文化委員会、(社)日本観光協会中部支部の監修により発行されている。産業観光施設の概要、アクセス(交通)情報などを掲載している。また、近傍のみどころや他の観光地を結んだモデルコース(28コース)も紹介されている。



七宝町七宝焼アートヴィレッジ
Tel 052-443-7588

〒497-0002 愛知県七宝町大字通島字十三軒2000
http://www.town.shippo.aichi.jp/7artvillage.htm

170年余の歴史と伝統を有し、平成7年には「尾張七宝」として伝統的工芸品の指定を受け、人々に親しまれてきた「七宝焼」をテーマとした「焼く」「焼ける」「焼く」をテーマとした「焼く」が楽しめる総合施設である。国内外に「七宝焼」の魅力をアピールする情報発信施設である。施設では七宝焼の製作工程の見学、作品鑑賞ができ、体験工場にて七宝焼体験教室が毎日行われ、作品づくりの楽しさを味わうことができる。

交通
【バス】名鉄バスセンター発名鉄バス運行「安松」歩15分
【タクシー】名鉄津島線「七宝」駅から5分
【電車】名鉄津島線「七宝」駅下車 徒歩25分

公開時間 9時～17時
休館日 月曜と祝日の翌日
年末年始
入館料 大人 310円
(常設展) 小人 100円(団体割引あり)
駐車場 110台(大型バス6台)

標準 60分

高浜市やきもの里かわら美術館 〒444-1325 高浜市青木町一-18

[2] 知多半島コース
＜公共交通機関利用＞

⑫1 名鉄「柴田」→①ガスエネルギー「平一館」→名鉄「柴田」→名鉄「知多半田」→②「新の里」→③「緑の館」→名鉄「常滑」

⑫2 JR「半田」→④「新の里」→⑤「新の里」→⑥「半田」→⑦「半田」→⑧「半田」→⑨「半田」→⑩「半田」→⑪「半田」→⑫「半田」

[3] 尾張・岐阜広域コース
＜公共交通機関利用＞

⑬1 名鉄「新岐阜」→①「新岐阜」→②「新岐阜」→③「新岐阜」→④「新岐阜」→⑤「新岐阜」→⑥「新岐阜」→⑦「新岐阜」→⑧「新岐阜」→⑨「新岐阜」→⑩「新岐阜」

⑬2 名鉄「新岐阜」→①「新岐阜」→②「新岐阜」→③「新岐阜」→④「新岐阜」→⑤「新岐阜」→⑥「新岐阜」→⑦「新岐阜」→⑧「新岐阜」→⑨「新岐阜」→⑩「新岐阜」

＜自動車利用＞

⑬3 名古屋市内→①「新岐阜」→②「新岐阜」→③「新岐阜」→④「新岐阜」→⑤「新岐阜」→⑥「新岐阜」→⑦「新岐阜」→⑧「新岐阜」→⑨「新岐阜」→⑩「新岐阜」

⑬4 名古屋市内→①「新岐阜」→②「新岐阜」→③「新岐阜」→④「新岐阜」→⑤「新岐阜」→⑥「新岐阜」→⑦「新岐阜」→⑧「新岐阜」→⑨「新岐阜」→⑩「新岐阜」

(B) テーマ別コース(日帰り)

[1] 「生活」
＜公共交通機関利用＞

⑮1 地下鉄「栄」→①「栄」→②「栄」→③「栄」→④「栄」→⑤「栄」→⑥「栄」→⑦「栄」→⑧「栄」→⑨「栄」→⑩「栄」

⑮2 伊勢湾岸道「東海IC」→①「東海IC」→②「東海IC」→③「東海IC」→④「東海IC」→⑤「東海IC」→⑥「東海IC」→⑦「東海IC」→⑧「東海IC」→⑨「東海IC」→⑩「東海IC」

[2] 「技術」
＜公共交通機関利用＞

⑮3 地下鉄「亀島」→①「亀島」→②「亀島」→③「亀島」→④「亀島」→⑤「亀島」→⑥「亀島」→⑦「亀島」→⑧「亀島」→⑨「亀島」→⑩「亀島」

⑮4 名鉄「常滑」→①「常滑」→②「常滑」→③「常滑」→④「常滑」→⑤「常滑」→⑥「常滑」→⑦「常滑」→⑧「常滑」→⑨「常滑」→⑩「常滑」

⑫中部の産業観光100選 視察ガイド

(財)中部産業活性化センターでは、行政や企業による視察向けに、中部5県（愛知、岐阜、三重、静岡、長野）の産業観光施設や工場などを紹介した産業観光視察ガイドを作成している。先端産業・現代産業、産業集積・研究開発拠点、伝統産業・産業文化、環境・エネルギーなど10テーマに分け、各10件ずつの産業観光施設概要の紹介、各2コースずつのモデルルートの紹介を掲載している。



中部の交通関連プロジェクトの特色

元来、中部地域は、東海交通の要衝として様々な交通系が早くから整備されてきた地域であり、現在も様々な民間交通系整備の計画が目白押しです。セントレア、静岡空港の2つの空港、東名北名、東海環状自動車道などの高速道路網、また、鉄道でも「地球」のアクセスとして期待され、実用段階としては国内初となるリニエ

ーセンターのリニエ(東海近距離)が開業を予定するなど、これだけまとまった交通系整備が進む地域は国内でも類を見ません。また、国内初のガソリン車の整備や、国内他地域に先駆けたITSへの取組など、国内でも先駆的に行なわれている交通システムが各々で導入されているのも大きな特徴です。

交通プロジェクト視察モデルルート

コース名	内容
コースA 名古屋白樺コース	8:00 名古屋駅発（貸切バス） 9:00 セントレア建設地 1. セントレアにて空港概要説明→建設現場視察 ※完全予約制 11:30 2. 常滑・やまのり徒歩にて昼食 14:00 3. 伊とリレーライン視察 16:00 4. リニエ視察（事業説明） 18:00 名古屋駅着
コースB 名古屋-東京方面片道コース	9:45 名古屋駅発（貸切バス） 10:00 1. Iモビリティセンター視察 12:00 2. 三日月会館見学・昼食 13:30 3. 豊田市内ITS視察 16:00 4. MAGO-ドーム視察 17:00 東京方面へ

※主な視察先

<p>1 セントレア</p> <p>2008年2月開業を目前に建設が進むセントレア（中部国際空港）は、おかげで様々な視察に誘われて、国内外から多くの視察客が訪れています。また、空港職員も日々研修を受けています。空港建設事務所では「セントレア」に関する様々な資料や、最新のイメージを展示する展示室、工業の最先端展示が人気です。</p>	<p>2 STAR-T21 豊田市ITS整備計画</p> <p>豊田市では、ITを推進する交通環境の整備を目的として、ITS整備計画を策定し、2004年10月に名古屋で開かれた第1回ITSフォーラムで発表されました。豊田市では、ITS整備計画に基づき、2004年10月に名古屋で開かれた第1回ITSフォーラムで発表されました。豊田市では、ITS整備計画に基づき、2004年10月に名古屋で開かれた第1回ITSフォーラムで発表されました。</p>
<p>3 e-com</p> <p>愛知県が推進する「e-com」は、2004年10月に名古屋で開かれた第1回ITSフォーラムで発表されました。豊田市では、ITS整備計画に基づき、2004年10月に名古屋で開かれた第1回ITSフォーラムで発表されました。</p>	<p>4 伊とリレーライン (名古屋ガイドウェイバス)</p> <p>名古屋から豊田まで、約100kmの距離を走る「伊とリレーライン」は、2004年10月に名古屋で開かれた第1回ITSフォーラムで発表されました。豊田市では、ITS整備計画に基づき、2004年10月に名古屋で開かれた第1回ITSフォーラムで発表されました。</p>
<p>5 MAGO-ドーム</p> <p>MAGO-ドームは、平成16年度に完成した、豊田市にある最新のスポーツ施設です。豊田市では、ITS整備計画に基づき、2004年10月に名古屋で開かれた第1回ITSフォーラムで発表されました。</p>	<p>6 Iモビリティセンター</p> <p>豊田市にある「Iモビリティセンター」は、2004年10月に名古屋で開かれた第1回ITSフォーラムで発表されました。豊田市では、ITS整備計画に基づき、2004年10月に名古屋で開かれた第1回ITSフォーラムで発表されました。</p>
<p>7 静岡空港</p> <p>静岡空港は、2004年10月に名古屋で開かれた第1回ITSフォーラムで発表されました。豊田市では、ITS整備計画に基づき、2004年10月に名古屋で開かれた第1回ITSフォーラムで発表されました。</p>	<p>8 清水湾</p> <p>清水湾は、2004年10月に名古屋で開かれた第1回ITSフォーラムで発表されました。豊田市では、ITS整備計画に基づき、2004年10月に名古屋で開かれた第1回ITSフォーラムで発表されました。</p>
<p>9 リニエ (東海近距離)</p> <p>リニエは、2004年10月に名古屋で開かれた第1回ITSフォーラムで発表されました。豊田市では、ITS整備計画に基づき、2004年10月に名古屋で開かれた第1回ITSフォーラムで発表されました。</p>	<p>10 IMTS 豊田・地球環境</p> <p>IMTS 豊田・地球環境は、2004年10月に名古屋で開かれた第1回ITSフォーラムで発表されました。豊田市では、ITS整備計画に基づき、2004年10月に名古屋で開かれた第1回ITSフォーラムで発表されました。</p>

⑬るるぶ情報版 産業観光に行こう 愛知県・東海地域

愛知県を中心とした東海地域の産業観光にテーマを絞ったるるぶ情報版「産業観光に行こう」が平成17年2月に発行されている。エリア別の産業観光施設紹介（各施設毎に1ページもしくは2ページ）を中心に、見所、体験、食事、おみやげなどの情報のほか、テーマ別のモデルコース（12コース）も掲載されている。



3-2 外国人による「産業観光のまち」事例調査

本調査においては、外国人観光客誘致による国際観光交流圏の推進が命題となっている。このため、実際に外国人に産業観光施設あるいは産業文化を背景とした地域「まち」を訪れてもらったうえで、その感想を聞き、外国人ユーザーニーズを探った。訪問先は、前述のアンケート、ヒアリング結果や既存情報をもとに「産業観光のまち」として14地域を選択し、名古屋市（名古屋駅）からの日帰り旅行を体験してもらった。

訪問先	訪問者（出身国、年齢、在日暦）
名古屋	①中国・26才・3年、②マレーシア・32才・2年、③台湾・31才・5年
有松	①中国・26才・3年、②マレーシア・32才・2年
瀬戸	①韓国・47才・2年半
豊田	①マレーシア・32才・2年
半田	①中国・32才・12年、②韓国・32才・6年
常滑	①ベルギー・24才・2年
美濃	①韓国・32才・6年、②オーストラリア・32才・12年
関	①韓国・32才・6年、②オーストラリア・32才・12年
多治見	①中国・27才・3年、②アメリカ・39才・10年
土岐	①中国・27才・3年、②アメリカ・39才・10年
四日市	①台湾・27才・3年
伊賀	①中国・22才・2年半、②中国・21才・2年
松阪	①台湾・27才・3年、②中国・26才・4年半
伊勢	①台湾・27才・5か月、②台湾・24才・5か月

結果としては、多くの外国人が各地での体験や職人との触れ合いに感銘を受け、貴重な体験として旅行の充実度が上がったとしており、産業観光は外国人に対する十分なPR要素になりうることを解った。しかし、これらの産業観光だけを目的として、そのエリアを訪れるほどの魅力には達しておらず、買い物や食事、その他の日本文化体験、著名観光資源と組み合わせることにより、観光地全体としての魅力を作り出さなければ、「産業観光のまち」には訪問しないという外国人も多かった。また、英語をはじめとする多言語による説明の有効性と必要性、外国語表記による地図や案内表示による誘導の必要性についても指摘された。

以下は、外国人による産業観光の体験レポートである。

①名古屋（トヨタテクノミュージアム産業技術記念館、ノリタケの森）

洪海燕（中国吉林省出身、26才、在日3年）

- ・愛知県といえばトヨタ自動車なので、産業技術記念館でトヨタ自動車の発展の歴史を知ることができて嬉しい。いかに力を尽くしてきたかという様子がよく伝わってくるし、トヨタ自動車の凄さや価値がよく分かり、産業技術記念館の存在意義は高いと思う。建物も広くてきれい。
- ・ノリタケの森は、建物の概観やノリタケ製品の展示、ショップにいたるまで美術館のようとてもきれい。食器はとてもきれいで欲しくなる。カフェでノリタケの食器を体験できてうれしかった。

Lim Evelyn（マレーシア出身、32才、在日2年）

- ・産業技術記念館は、内容盛りだくさんだった。自由にマルチメディアを使って映像解説を見たり、機械を動かしたりすることができて面白かった。
- ・ノリタケの森は落ち着いた雰囲気、緑がたくさんあって気持ちがいい。

鄧敏君（台湾出身、31才、在日5年）

- ・産業技術記念館はたくさんの知識を得ることができてすごく刺激になる。配置もゆったりとしていて広く、ゆっくり見ることができて良いと思う。実際に触れられたり、機械が動いている点が良く、特に糸ができる工程に感動した。綿を触ったが、とても気持ち良かった。日本の近代史の一部を目の前で感じたし、建物もきれいでとてもよかった。こういった施設にはあまり興味がなかったが、これからは記念館や博物館にどんどん行こうと思うし、教育にもなるので子供を連れて行きたい。
- ・ノリタケの森はとてもきれいで、空気がゆっくりしているのでくつろげる。ノリタケの森もまた行きたい。

②名古屋（有松・鳴海絞会館、有松山車会館）

洪海燕（中国吉林省出身、26才、在日3年）

- ・絞り体験がおもしろかった。出来上がりまで日にちがかかるけど、手元に届くのがとても楽しみ。有松山車会館では、山車やからくり人形、お祭りの様子を英語字幕付のビデオでゆっくり見ることができたのでよかった。からくり人形を実際に見てみたい。

Lim Evelyn（マレーシア出身、32才、在日2年）

- ・有松の絞り体験を教えてくれるおばあちゃんがとってもおもしろい人で、おしゃべりしながら進んでいくのでとても楽しかった。絞りはとてもきれいで見るだけでも楽しい。色の種類もたくさんあって、買うのに迷ってしまうくらいおもしろい。



③瀬戸（瀬戸蔵、瀬戸市マルチメディア伝承工芸館、窯垣の小径）

李 相千（韓国出身、47歳、在日2年半）

- ・瀬戸蔵のエントランスホールの天井は透明のドーム型で陽が入り、見上げると螺旋階段と一緒にとてもきれいな吹き抜けだった。瀬戸蔵ミュージアム（2階）の昔の電車や建物は見ていておもしろいし、休憩所やミニコンサートができるスペースがあるなど、くつろげるところが良いと思う。3階から見下ろすことができるのもおもしろい。3階展示室も焼き物がきれいに並べられていて、瀬戸焼の歴史が一目瞭然で分かりやすい。
- ・マルチメディア伝承工芸館は、染付展示室で染付の歴史ビデオを座ってくつろいで見ることができ、また、展示物もきれいな絵柄の焼き物がたくさんあって楽しかった。
- ・窯垣の小径は、瀬戸の人々が瀬戸焼を大事にしていることが伝わってくる。幾何学模様がとてもきれいだった。晴れた日の散歩にぴったりで、歩いていて気持ちが良い。
- ・一里塚は、登窯の中に入って見ることができておもしろかった。
- ・瀬戸は、大都会じゃないからこそ昔の思い出が随所に感じられる。施設同士が近くにあり、歩きやすい点も良いと思う。

④豊田（トヨタ自動車、トヨタ会館）

Lim Evelyn（マレーシア出身、32才、在日2年、）

- ・トヨタ工場見学の説明は、英語の発音がきれいで聞きやすかった。トヨタのいろんなことを伝えたい、という思いがちゃんと伝わってくる。見学時間・コースが工場のシフトを邪魔しないようにきっちりしていて、その連携がすごかった。世界のトヨタを間近で見ることができて嬉しかったし、身近だけど普段は見ることの無い車の中身が見られて面白かった。
- ・トヨタ会館はきれいでゆったりとしていて見学しやすい。展示の説明音声に全て英語だけでなく中国語もあって良い。展示カーは実際に触ったり中に座ったりできるので、大人はもちろん、子供も楽しむことができる。2階には小学生も楽しめるようにゲームや分かりやすい展示があり、グローバル対応だけでなく幅広い世代に心を配っている姿勢が感じられ、さすがトヨタ、と思ったし、実際にゲームは楽しかった。子供を連れて遊びにきたい。

⑤半田（酢の里、国盛酒の文化館）

魯 雪娜（中国深圳出身、32歳、在日12年）

- ・酢の里は、見学する機会がないので良かった。無料で入れるのがよい。解説してくれたおじさんの酢に関してや、その他の知識の多さが良い。酢の製造工程が見れてものめずらしさがある。またきても良い。しかし、展示個所に中国語の表記がなく、中国語の通訳もないので、少なくとも表記があるとよい。

- ・酒の文化館は、説明してくれる人の知識の多さと熱意は伝わった。道具だけ見ても日本酒がどんなものかイメージが湧いてこないのも、外国語の解説があるとよい。

李 光済 (韓国ソウル出身、32歳、在日6年)

- ・酢の里は、案内係の対応・笑顔が良い。知識が豊富で、説明がわかりやすい。酢の博物館は珍しい。日本のほかの場所にはないのではないかと思われる。今度ぜひ友達や家族を連れてきたいと思う。
- ・酒の文化館では見られないが、お酒を製造する工程を見たいと思った。日本酒についての知識をもっと得られるような施設にすると良い。(以前神戸の酒蔵を見学したことがあり、工程を見たり自分で展示物を動かしたり、試飲ができた。施設の拡充が求められる。)

⑥常滑 (やきもの散歩道、世界のタイル博物館、瀧田家)

サラ (ベルギー出身、24歳、在日2年)

- ・全体的にはかなり面白いと思った。雰囲気がいい。日本の古い町並みを散歩できてとても楽しかった。小さな町で気軽に散歩できる点もよい。あちこちに見られる建物がとても日本らしく魅力的だった。道の土管も面白い。生活している人も含めて町を歩き来している姿は興味深い。店が日曜日だからしまっているのか分からないが、開いているのか閉まっているのかがわかりにくかった点はわかりやすくしてもらえるとよい。
- ・世界のタイル博物館は、面白かった。興味深く見ることができた。
- ・瀧田家は、特徴的な家で興味深いけど、英語表記がなく簡単なものでも外国語表記が欲しい。
- ・登り窯も非常に興味深かった。

⑦美濃 (うだつのあがる町並み、和紙の里会館)

徐英淑 (韓国蔚山市出身、32才、在日6年)

- ・うだつのあがる町並みは、今井家の屋敷で説明を聞き、見学をしたので興味がだんだん湧いてきて楽しくなり、町の風景を楽しむことができた。水琴窟の音がとてもきれいだった。不安だったことは、駅からの道案内表示がなく、案内表示が欲しい。
- ・和紙の里会館では、初めての和紙体験ができたのでとてもわくわくした。係の人がとても丁寧に説明してくれたので、とても分かりやすかった。出来上がった完成品を見たらとてもうれしくなって、また作りたいと思った。展示されている作品も素晴らしかった。体験説明を外国語でも行ってもらえるなら、より良いと思う。駅から若干遠くバスは不便なので外国人には分かりにくいと思われるので、移動はタクシーを使うのがよいと思う。

Whitney Justin (オーストラリア出身、32才、在日12年)

- ・ 今日一番楽しかったのは「和紙の里会館」。和紙体験が面白かったし、専用のスタンドが販売されているので、自分の作品を飾っておくことができ嬉しい。展示内容もとても良く、きれいで触ってみたいくなる。世界最大の和紙作品が1階から3階まで吹き抜けて展示してあってすごかった。販売している和紙グッズもユニークなものがたくさんあって面白かった。やはり、体験説明で外国語があると良いと思う。
- ・ うだつのあがる町並みでは、今井家で狭く低い天井の階段を登って2階へあがることができおもしろかった。しかし、それ以外は町並みを見るだけでは町の歴史がわかりづらく、ガイドなどがあるとありがたい。



⑧関 (関鍛冶伝承館、濃州関所茶屋)

徐英淑 (韓国蔚山市出身、32才、在日6年)

- ・ 日本といえばすぐ思い浮かぶのが侍、刀なので関鍛冶伝承館はとても魅力的だと思う。刀を作る工程が分かりやすく、画像と人形で展示してあるので良かった。ただ、説明や表記が日本語だけだったので、外国人には分からず簡単な説明でもあったとよい。

Whitney Justin (オーストラリア出身、32才、在日12年)

- ・ 関鍛冶伝承館は、刀に興味があったので感動した。工程説明がしっかりしており、きれいな刀がたくさん展示しているのでとても楽しかった。ただ、英語表記があるものと無いものがあり、あっても英訳の誤りも見られ、せめて刀名称と製作年月日(西暦で)があるとよい。

⑨多治見 (市之倉さかづき美術館、市之倉オリベストリート)

孟科 (中国南京出身、27歳、在日3年)

- ・ 人がやさしい。駅や町の中で行き先を人に尋ねても、熱心に教えてもらえる。
- ・ 自然がきれい。緑も多いし、空も青い。

ジェームス・ラセガード (アメリカ出身、39歳、在日10年)

- ・ 焼き物に興味があったので、実際に焼き物で有名な町に来て、知識を深めることができた。残念なのは、英語で観光案内所の表示が書かれてなかったため多治見の観光案内所がわからなかったことと、市之倉のまちも外国語表記が少なく非常にわかりにくいことから、最低限の外国語表記があるとよい。

⑩土岐（美濃伝統産業会館）

孟 科（中国南京出身、27歳、在日3年）

- ・土岐市の美濃伝統産業会館で作陶して、楽しかった。観光客にとってかなり魅力がある。土岐市のバスの本数が少なく、本数の充実が望まれる。
- ・観光施設にもっと、映像や音声で展示物を説明してもらえればよい。

ジェームス・ラセガード（アメリカ出身、39歳、在日10年）

- ・実際に焼き物体験ができたのがよかった。伝統が受け継がれてきた町なので、実際に作ることによって日本の伝統に参加できることが良かった。
- ・伝統的なものを勉強できた。
- ・観光案内所で、行く予定以外のところも薦めてくれたのがよかった。土岐には英語のパンフレットが多くてよい。
- ・土岐の観光案内所は駅の2階にあるためわかったが、漢字の読めない人には分かりにくいので、英語表記は欲しい。



⑪四日市（万古焼窯元体験、泗翠庵、四日市博物館）

劉 恵卿（台湾彰化市出身、27歳、在日3年）

- ・四日市市立博物館では日本の刀展が行われており、展示内容が素晴らしかった。外国人にとって刀は憧れであり、見ることで嬉しかった。常設展は、ボタンを押すとランプが光ったり、音声説明が流れたので分かりやすく、楽しむことができた。
- ・泗翠庵は日本の伝統美が随所に感じられてとても良かった。着物姿の店員さん、お茶の作法、茶室の造りなど細部にわたって日本の心が表されている。茶室を囲むコの字型雨戸が一箇所にしまわれ、庭を一望できることがすごい。窓枠にも大工さんの細かくてしっかりした仕事が施されていて感動した。庭もきれいで、今は梅、春になったら桜、と四季を味わえるようになっており、日本の季節感はずごい。お茶をゆっくり飲むことができ、茶室の丁寧な説明を聞くこともできて楽しかった。
- ・陶芸体験は、思っていたより簡単だった。先生がいろいろ話しかけてくれて、おしゃべりしながら作陶できる気さくな雰囲気楽しかった。



⑫伊賀（組紐体験、忍者博物館、上野城、寺町）

梁 珊（中国瀋陽出身、22才、在日2年半）

- ・組紐がとてもきれいで色合いがかわいかった。お店には色とりどりの商品が置いてあって、（高くても買わなかったけれど）どれにしようか迷うほどだった。実際に体験できたこともうれしいし、短時間でキーホルダーが作れ、すぐ持って帰ることができて良かった。
- ・忍者屋敷は、係の人がからくりの使い方を実演して見せてくれ、その動作が俊敏でおもしろかった。忍者屋敷と上野城が同じ上野公園の敷地内にあり、緑の中を散歩しながら回ることができて良いと思う。
- ・伊賀牛が有名とのことだが、リーズナブルに味わえるお店がいくつかあってうれしい。今日のステーキ丼もおいしかった。また、伊賀上野の町は道がそんなに難しくなく、歩いて回ることができるので観光しやすい。

- ・寺町は「古い町並み」ではなく、舗道もお寺の門構えも新しかったので意外だった。

王 唯（中国北京出身、21才、在日2年）

- ・組紐は光沢があってとてもきれいだった。組紐体験は特におもしろく、丁寧に教えてもらえるので簡単にきれいなものが作れ、伊賀上野だからできる日本の文化に触れることができうれしい。
- ・忍者屋敷はいろんなからくりがあっておもしろかった。忍者の衣装が等身大の人形に飾ってあって楽しかった。上野城は白い砂利が映えてきれいだった。
- ・伊賀上野は観光スポットが固まっているので気軽に回れて良いと思う。



⑬松阪（松阪もめん手織りセンター、松阪商人の館、歴史民俗館、御城番屋敷）

劉 恵卿（台湾彰化市出身、27歳、在日3年）

- ・名古屋からちょうどよい距離で行きやすいし、松阪駅から近いところに施設が集合していて回りやすい。松阪の観光案内所で中国語・台湾語の看板が無かったのが残念。昔の建物がたくさん残っているので街並はおもしろく、散歩気分で歩けるので楽しい。各施設の入館料も安いので入りやすい。ただ、英語版や台湾語版のパンフレットがあっても、各展示説明は日本語のみなので、マルチメディアを使った展示の工夫があればいいと思う。日本語が分かっても歴史的・文化的背景までは分からないので、説明自体ももっと簡単なものだと嬉しい。「江戸時代」と言われてもイメージが湧かない。昔の建物に興味があったので、寸庵ではボランティアの説明があったのでよく分かったし、うれしかった。松阪は「商人」で有名なのだから、日本ビジネスに興味を持つたくさんの外国人にもっとアピールするといいと思う。
- ・松阪牛は高くて憧れの存在だったけど、松阪に来ればお手頃に食べることができてよかった。もっと「お手頃」をアピールするいいと思う。飛騨のようにコロッケや牛くし、たこ焼きなど安く楽しめるものがあると嬉しい。

王 寧（中国北京市、26歳、在日4年半）

- ・もめん手織り体験が楽しかった。アジアには同じような文化があるけど、ヨーロッパにはないと思うからもっと喜ぶと思う。ただ、民族資料館に2階があることや手織り体験できることが入館しただけでは分からないので、もっとアピールしたほうがいいと思う。
- ・一日乗車券があれば松阪に来る気になると思う。



⑭伊勢（河崎商人館、おかげ横丁）

何芝芳（台湾台北出身、27才、在日5ヶ月）

高毓勵（台湾台南出身、24才、在日5ヶ月）

- ・河崎町の散策は、日本文化に興味がある人にとっては楽しいと思う。忙しい中のリラックスに散歩するには良いと思う。景色や人情など。商人館の主人がとても親切で丁寧だった。
- ・おかげ横丁は、ショッピング（土産、産物、民芸品）がとても楽しい。若い人にも楽しい。（観光案内所の人とても親切。）
- ・伊勢の町自体が歴史のあるのんびりした町なので、若い世代にとっては、歴史に興味深い人であれば楽しめると思う。

3-3 産業観光の効果的情報発信手法の検討

(1) 効果的な情報発信手法

これまで見てきたとおり、産業観光についての情報発信は、パンフレットとホームページを中心になされている。他には、口コミ情報や旅行会社からの情報、新聞や雑誌の情報などがあるが、持ち歩ける紙媒体としてのパンフレット、情報発信手段・情報収集手段としてのホームページは、観光情報としては欠かすことのできない必須の情報発信手法である。

パンフレット、ホームページについては、①個々の産業観光施設の魅力の紹介、②モデルコースの提示、③ストーリー（産業技術史）の提示の組合せにより構成されているものが多い。個々の産業観光施設の情報は「点」としての情報発信であり、モデルコースは「点と線」としての情報発信であるといえる。また、ストーリー性を持たせた情報発信は、産業観光施設への誘客のみならず、視察・見学の事前学習、事後学習といった教育的側面も強い。これらの手法による産業観光情報の発信も重要であるが、観光の魅力としての「地域」が見えてくるものが少ないのも実態である。各地に存在する産業観光施設・資源を観光交流圏形成に有効に活かしていくためには、「地域」の紹介に主眼を置き、地域の文化、伝統、さらには他地域や著名観光地といった周辺観光施設との連携などを含めた「面」としての情報発信を行っていくことが重要である。

また、国際観光地として醸成していくためには、外国人観光客に対する訴求力を高めなければならないが、現状では外国語版での情報が乏しく、外国人からも、多言語による説明、外国語表記による案内の有効性・必要性について指摘されており、訪日外国人の多い主な国の言語（中国語、韓国語、英語）での情報発信も必須のものとして求められるところである。

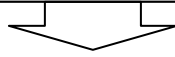
そのほか、多くの外国人が各地での体験や職人との触れ合いに感銘を受け、貴重な体験として旅行の充実度が上がったとしているが、これは、日本人旅行者にとっても産業観光の大きな魅力である。

以上の検討から、本調査においては、産業観光関連施設・資源を国内外にアピールする際に効果的な手法を次のように整理するとともに、これに基づいたパンフレット、ホームページを企画・制作し、評価を行うこととした。

これまで東海三県において行われてきた産業観光関連の情報発信（パンフレットやホームページ等）と補完し合いつつ、ものづくり文化を核とした「地域」（エリア）のブランド化を目指すものである。

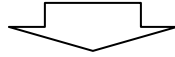
■これまでの情報発信手法

- ・個々の施設に着目した情報発信
るるぶ「産業観光へ行こう」、あいちの産業観光 など
- ・モデルコースの提示
産業観光のしおり、中部の産業観光 100 選視察ガイド など
- ・ストーリー（産業技術史）を重視した情報発信
産業技術ネットワークミュージアム など



■これらになく、これらと補完しあう効果的な情報発信手法

- ・地域（エリア）に着目した情報発信
地域文化に産業が根付いている地域を紹介
→<ものづくり文化を核とした地域（エリア）のブランド化>



- ① 多言語（日本語、英語、中国語、韓国語）により情報発信する。
- ② 各地でのものづくり体験、職人との触れ合い、出会い体験を情報発信する。
- ③ 産業観光だけの体験ではなく、様々な要素を加えた「まち」としての魅力を情報発信する。
- ④ 産業観光施設としての情報発信だけではなく、他地域、著名観光地との組み合わせによる周遊の魅力を情報発信する。

4. パンフレット・ホームページの試作

4-1 試作パンフレット・ホームページの構成

(1) 試作パンフレットの構成

パンフレットの作成に当たり、委員会での議論を踏まえ、ターゲット層の明確化など、以下のような方針とした。

- ①旅行会社や交通事業者ではなく、一般観光客個人への直接的な訴求
- ②旅行者の主流となる中高年齢層への訴求
- ③リピーターとなりうる2時間圏内のマーケットへの訴求
- ④在住外国人を含めた外国人への訴求

パンフレットの全体構成は、以下のとおり、全48ページとし、「2ページ見開きで地域を紹介するページ」、「2分の1ページで紹介するページ」、「一覧表にて各産業観光施設を紹介するページ」の3部構成とした。掲載する地域の選定に当たっては、アンケート調査、ヒアリングなどの結果、産業観光への取り組みが見られ、ものづくり文化が根付いていることに注目した。

なお、本調査事業においては、パンフレットの印刷は評価を行うに足る部数に抑えることになるが、調査結果としてのパンフレットの原版については、これを有効に活用することを検討し、委員会でも議論を行った。

その結果、パンフレットの原版を様々な主体が一定条件のもとで再利用して印刷配布ができる方向を模索することとした。即ち、パンフレット全体あるいは一部分を、各地域において産業観光を推進している主体などが増刷することにより、本調査の成果を有効に活用してもらおうとするものである。

[全体構成]

東海ものづくりのまち廻り 産業観光ガイドブック頁構成

頁	内容	頁	内容
1	表紙	26	東海ものづくりのまち廻り⑫
2	目次(三県広域分布地図)	27	伊賀市(組みひもと伊賀焼の町)
3	"	28	東海ものづくりのまち廻り⑬
4	東海ものづくりのまち廻り①	29	松阪市(松阪もめんと商人の町)
5	名古屋市(産業発祥の町)	30	東海ものづくりのまち廻り⑭
6	東海ものづくりのまち廻り②	31	伊勢市(商人の町)
7	名古屋市(有松絞の町)	32	東海ものづくりのまち廻り
8	東海ものづくりのまち廻り③	33	愛知県①(長久手/高浜/小原/七宝)
9	瀬戸市(せとものの町)	34	東海ものづくりのまち廻り
10	東海ものづくりのまち廻り④	35	愛知県②(岡崎/南知多/東海/蒲郡)
11	豊田市(車の町)	36	東海ものづくりのまち廻り
12	東海ものづくりのまち廻り⑤	37	岐阜県(瑞浪/美濃加茂/郡上/高山)
13	半田市(蔵のまち)	38	東海ものづくりのまち廻り
14	東海ものづくりのまち廻り⑥	39	三重県(川越~桑名/鈴鹿/亀山/鳥羽)
15	常滑市(常滑焼の町)	40	東海三県 産業観光資源一覧 関係機関一覧
16	東海ものづくりのまち廻り⑦	41	
17	美濃市(和紙の町)	42	
18	東海ものづくりのまち廻り⑧	43	
19	関市(刃物の町)	44	
20	東海ものづくりのまち廻り⑨	45	
21	多治見市(美濃焼の町)	46	
22	東海ものづくりのまち廻り⑩	47	
23	土岐市(美濃焼の町)	48	
24	東海ものづくりのまち廻り⑪		
25	四日市(万古焼の町)		

①東海ものづくりのまち廻り①～⑭（各2ページ、見開きで紹介）

- ・左ページにおいて、それぞれのまちを代表する産業観光資源を写真構成で紹介。写真を大きく扱うことにより、地域の魅力をインパクトを持って見せる。
- ・右ページでは、各都市においてまち廻りができる範囲の地図を掲載し、このガイドを持って実際に歩けるような概略地図を掲載する。
- ・主な産業観光資源の解説を掲載するほか、それぞれのまちの他の観光資源についても掲載する。
- ・観光協会などの産業観光関係機関も紹介する。
- ・外国人に実際に訪れてもらい地域の感想、産業観光施設の感想など、簡単なレポートを紹介する。

②東海ものづくりのまち廻り（各1／2ページで紹介）

- ・ものづくりの産業文化を背景としたまちを紹介する。
- ・主な産業観光資源1箇所の解説と、その他の観光資源及びまち廻りのマップを掲載する。

都市の選択基準は、①、②ともに、本調査において全市町村に対して行ったアンケートを基準に「ものづくり文化」と「まち廻り」を実現できる都市を選択。

③東海三県産業観光資源一覧（東海三県全市町村の産業観光資源を一覧で紹介）

- ・本調査において実施したアンケートの回答、既存資料の調査をもとに、各市町村の産業観光資源を一覧で紹介する。
- ・一覧性を良くするため、施設名、所在地、ホームページアドレスの紹介にとどめる。

(2) 試作ホームページの構成

ホームページの作成に当たり、委員会での議論を踏まえ、掲載情報や制作上の留意点などについて以下のような方針とした。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">①今回試作するパンフレットをベース②シンプルな構成③産業観光資源の所在情報など基本的な情報を掲載④サーバーを選ばないコーディング |
|---|

ホームページは、今回試作するパンフレットのデザインを基本とし、イメージの統一を図るとともに、パンフレットの特徴である一覧性の良さと、ホームページの特徴であるリンク機能や検索性との相互補完を期待することとした。全体としては、わかりやすさと見やすさを重視し、言語（日本語、英語、中国語、韓国語）の選択の後、東海三県図から、各「まち」へ、そして、各「まち」から各施設、各施設からオリジナルホームページへとリンクしていくシンプルな構成で制作する。

掲載する情報は、パンフレットに沿った各「まち」の紹介のほか、基本的な情報として、東海三県の産業観光資源の所在情報を掲載する。所在情報については一覧性を重視することとし、業種分類などの階層化は極力避ける。なお、イベント情報など常時更新が必要となるような情報については、おのおのの産業観光施設のオリジナルホームページに任せ、このホームページの維持主体に過大な負担をかけないようにする。

また、このホームページの制作に当たっては、音声や動画、アニメーションなど、サーバーへの負担が大きくなるような作り込みは避け、特別な付加機能を要求しない簡素なシステム構成でも維持運用できるようなコーディングを行うこととする。